第 2013-21 号

恵みと真理のニュース

2013 年 7 月の二次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養 5 洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］　私たちの家族に与えてくださった愛に感謝し夏の断食祈り会に与えてくださる恵みを愛します。

前回に続いて

どころが 2005 年 4 月に旦那が通っていた会社がリストラクチュアリングして旦那は自ら名誉退職をしました。退職者の教育を受けた旦那は私と一緒に事業をしたがっていました。しかし、私はもし旦那を手伝って事業をすると礼拝に参加できなくて心が寂しくなり主のことがおろそかになることが心配でした。旦那は今までいくら忙しくても主日礼拝だけは守りました。旦那に急がなくてこれから月曜祈り会と金曜祈り会に参加して一緒に私たちの道を導いてくださいと祈ってみようとしました。旦那は事業を考えるかたわら礼拝は全て参加して熱心に聖書も読み始めました。そんな旦那を見ながら神学を勉強したらどうか聞いてみました。悩んだ末に旦那は神学に入学しました。しかし 3 年過程を終えた後やめました。神様に呼ばれた使命もなくただ知識的で学問的で神学を勉強したとしても完全に献身する使役者になれないと思って辞めたのです。この後、旦那は就職のためいろいろ所に履歴書は出しましたが 2 年間就職が出来ませんでした。しかし、落段しなくて神様の時を待ちながら祈り中に旦那に新しいビジョンができ韓国語教員資格を取って中国に語学研修で行きました。その後、ついに神様の摂理で中国の大学で韓国語の教授で仕事をするようになりました。旦那は昨年の夏休みのとき韓国に来て 8 月にあった第 1 回夏の断食祈り会に参加して 2 泊 3 日のあいだ集中的に御言葉を聞いて叫びながら切に祈り賛美して献身する中で御言葉と聖霊の権能を受けて祈りに答えられました。
神様の愛と恵みを深く体験して信仰が成長し、成熟になりました。中国に帰ってもインタネットを通してうちの教会の礼拝をささげ、続けて牧師の御言葉を聞きお祈りたびに神様がくださる恵みを受け勝利して生きています。旦那は今から今年の夏の断食祈り会に参加して聖会で受ける恵みを考えながら楽しみしています。旦那が名誉退職後 6 年が過ぎて私たちの家族に環境的で物質的に長い苦難の時間でした。しかし、神様の摂理があると信じて全ての家族が信仰でひとつになって忍耐しながら祈りで克服できました。
苦難があったから苦難が栄光の道になった体験を通して神様をもっと敬いゆだね愛することが出来ました。私の家族は神様から大きい祝福を受けた子供です。大学入試に失敗をした長男は希望をもって軍隊から帰って来て再び勉強し教大に入学しました。教会では教会学校の教師で奉仕しています。次男も神様の見守りの恵みの中で誠で健康で育ち今は軍隊にいます。
私は教会学校で小等部の教師として奉仕しています。平日には聖霊に満たされた先生たちと共に Ｇ Ｎ Ｔ Ｃ 人形劇チームでもうすぐ、いろんな聖殿を回しながら夏の聖書学校で公演する“聖霊の実を得たパウロ”という人形劇を汗を流しながら準備しています。一週間がどのように過ぎたかわからないくらい忙しいがもうすぐ多くの教会学校の子供達に出会いその子供たちが受ける恵みを考えると神様から受けたタレントで主のことを出来ることに感謝し、幸せです。もっと感謝することは、私の子供のごろ“教会に行くと家がつぶれるよ。”といった母を伝道するたびに“私はいいから、あなただけよく信じてね”と福音を強く拒否した母が今は執事になりいつも“私の神様”と言っています。早くイエス様を信じなかったことを惜しく思いで今もアンサンのサンロクス駅で切ない心で不信者のために福音を伝えている母の姿を考えると神様に言葉では表現出来ない感謝をささげます。“　主はわたしの力、わたしの盾／わたしの心は主に依り頼みます。主の助けを得てわたしの心は喜び躍ります。歌をささげて感謝いたします。（詩編　２８：７）

［信仰コラム］　常（つね）に神（かみ）様（さま）の仕事（しごと）にさらに力（ちから）を尽（つ）くすと

だから、愛する兄弟たちよ。堅く立って動かされず、いつも全力を注いで主のわざに励みなさい。主にあっては、あなたがたの労苦がむだになることはないと、あなたがたは知っているからである　コリントの信徒への手紙一 15:58)

獣（じゅう）と人（ひと）の間（あいだ）に決定（けってい）的（てき）な違（ちが）いは、魂（たましい）にあります。人（ひと）は魂（たましい）がいるが、獣（けもの）は魂（たましい）がありません。魂（たましい）のない獣（じゅう）には神（かみ）の意識（いしき）（神（かみ）意識（いしき）がないために猿（さる）集団（しゅうだん）生息（せいそく）地（ち）のどこへ行（い）っても宗教（しゅうきょう）に関（かん）する痕跡（こんせき）を全（まった）く見（み）つかりません。しかし、人（ひと）が住（す）んでいたところにはどこでも宗教（しゅうきょう）に関（かん）する痕跡（こんせき）があります。人（ひと）が神（かみ）を崇（あが）めるて永（えい）生（せい）を求（もと）めることは魂（たましい）を持（も）った存在（そんざい）だからです。この点（てん）で、他（た）の生命（せいめい）体（たい）たちと完全（かんぜん）に区別（くべつ）されます。アダムの犯罪（はんざい）によってその子孫（しそん）の人（ひと）達（たち）は罪人（ざいにん）になって神（かみ）様（さま）との関係（かんけい）で正常（せいじょう）状態（じょうたい）から脱（だっ）するようになりました。それで、被（ひ）造物（ぞうぶつ）を神（かみ）のように仕（つか）えるようになって偶像（ぐうぞう）崇拝（すうはい）に転落（てんらく）してしまいました。自己（じこ）存在（そんざい）の根源（こんげん）と理由（りゆう）と目的（もくてき）に対（たい）する認識（にんしき）能力（のうりょく）が損（そん）なわれてしまいました。人生（じんせい）の終着（しゅうちゃく）駅（えき）は滅亡（めつぼう）と地獄（じごく）がなってしまいました。しかし、このような人生（じんせい）を哀（あわ）れに思（おも）った神（かみ）様（さま）が救（すく）いの道（みち）をくださいました。、イエス・キリストを信（しん）じる人（ひと）は誰（だれ）でも罪（つみ）を許（ゆる）す受（う）けて、魂（たましい）が省令（しょうれい）で生（う）まれ変（か）わって永（えい）生（せい）を得（え）ます。、イエス・キリストを信（しん）じる人（ひと）は人生のみちで暗中（あんちゅう）模索（もさく）と彷徨（ほうこう）が止（と）まっています。自分（じぶん）がどこから来（き）てなぜ生（い）きてみてどこに行（い）くのか確実（かくじつ）に知（し）り合（あ）いになります。永遠（えいえん）な福（ふく）楽（がく）を享受（きょうじゅ）するようになる父（ちち）の家（いえ）と呼（よ）ばれる天国（てんごく）に向（む）かって行（ぎょう）く旅人（たびびと）ということが分（わ）かるようになります。そして神（かみ）様（さま）を礼拝（れいはい）し、神（かみ）様（さま）の仕事（しごと）に力（ちから）を入（い）れながら、生（い）きることが生（なま）の理由（りゆう）で目的（もくてき）になって暮（く）らしています。社会（しゃかい）における身分（みぶん）と役割（やくわり）が何（なん）でも核心（かくしん）的（てき）な生（なま）の理由（りゆう）と目的（もくてき）は礼拝（れいはい）と神（かみ）様（さま）のことです。すべての活動（かつどう）がこの二（ふた）つの軸（じく）に連携（れんけい）されています。
第（だい）一（いち）、転倒（てんとう）は、神（かみ）様（さま）のことです。神（かみ）様（さま）の大（おお）きな関心（かんしん）事（じ）は罪人（ざいにん）が救（すく）いを得（え）ることです。復活（ふっかつ）昇天（しょうてん）したイエスが聖霊（せいれい）を送（おく）ってくださって成都（せいと）が権能（けんのう）を受（う）けてきた世界（せかい）万民（ばんみん）に熱心（ねっしん）を全（まっと）うして福音（ふくいん）を反映（はんえい）するようにしました。救援（きゅうえん）することは神（かみ）様（さま）の主権（しゅけん）だが、福音（ふくいん）を反映（はんえい）することは聖（せい）徒（と）たちに任（まか）せました。
第（だい）二（に）に、神（かみ）様（さま）の名前（なまえ）で救済（きゅうさい）することが神（かみ）様（さま）のことです。教会（きょうかい）が設立（せつりつ）されると、必（かなら）ず教会（きょうかい）は救済（きゅうさい）に取（と）り組（く）むことになります。招待（しょうたい）教会（きょうかい）の時（とき）からさようでございました信者（しんじゃ）らが自分（じぶん）の財産（ざいさん）を売（う）って救済（きゅうさい）のために提供（ていきょう）することがたくさんありました。第（だい）三（さん）に、教会（きょうかい）のために奉仕（ほうし）するのは神（かみ）様（さま）のことです。聖徒（せいと）が礼拝（れいはい）をよく届（とど）けできるように複数（ふくすう）の奉仕（ほうし）部門（ぶもん）に属（ぞく）して奉仕（ほうし）することは神（かみ）様（さま）のことです。区域（くいき）、聖歌（せいか）隊（たい）、教会（きょうかい）学校（がっこう）、隣人（りんじん）助（たす）け合（ごう）い宣教（せんきょう）会（かい）、各（かく）宣教（せんきょう）会（かい）で苦労（くろう）することは神（かみ）様（さま）のことです。教（きょう）会堂（かいどう）建築（けんちく）のために献金（けんきん）と体（からだ）で奉仕（ほうし）することは神（かみ）様（さま）を嬉（うれ）しく呼（よ）び立（た）てしている神（かみ）様（さま）のことです。教（きょう）会堂（かいどう）は礼拝（れいはい）する家（いえ）であり、祈祷（きとう）する家（いえ）です。神（かみ）様（さま）のお言葉（ことば）を聞（き）いて学（まな）ぶ家（か）であり、聖徒（せいと）たちが主流（しゅりゅう）の中（なか）で交際（こうさい）する家（いえ）です。主を仕（つか）えて奉仕（ほうし）する家（いえ）であり、前途（ぜんと）を向（む）けた教育（きょういく）と訓練（くんれん）の家（いえ）です。
常（つね）に神（かみ）様（さま）の仕事（しごと）にさらに力（ちから）を尽（つ）くすとしました。今日（きょう）は昨日（きのう）よりもっと取（と）り組（く）んで明日（あした）は今日（きょう）よりさらに力（ちから）を尽（つ）くす必要（ひつよう）があります。神（かみ）様（さま）の仕事（しごと）ができないように振（ふ）る者（しゃ）がいます。その揺（ゆ）さぶるのが誰（だれ）でも何（なん）でもその背後（はいご）にはサタンがあります。サタンは成都（せいと）が神（かみ）様（さま）の仕事（しごと）に飽（あ）きを出（だ）すように世（よ）の中（なか）のことで誘惑（ゆうわく）して、神（かみ）様（さま）の仕事（しごと）をしたが、試験（しけん）に入（はい）って、後（うし）ろに退（しりぞ）くように衝動（しょうどう）します。そこで神（かみ）様（さま）の仕事（しごと）ができないように振（ふ）る考（かんが）えと言葉（ことば）を分別（ぶんべつ）しなければならず、そのような考（かんが）えと言葉（ことば）の背後（はいご）に歴史（れきし）するサタンを退（しりぞ）け必要（ひつよう）があります。神（かみ）様（さま）を礼拝（れいはい）して神（かみ）様（さま）の仕事（しごと）に力（ちから）を入（い）れながら、生（い）きている人（ひと）は他（ほか）の生命（せいめい）体（たい）とは比（くら）べ物（もの）にならない高（こう）次元（じげん）の人生（じんせい）を生（い）きていきます。
永遠（えいえん）な価値（かち）と意味（いみ）を生産（せいさん）して暮（くら）すことになります。すべての人（ひと）が将来（しょうらい）的（てき）に神（かみ）様（さま）の前（まえ）に立（た）って審判（しんぱん）を受（う）ける日（ひ）が来（く）るようになります。そして、天国（てんごく）で笑（わら）う者（もの）は永遠（えいえん）に笑（わら）うようになります。皆（みんな）さんは神（かみ）様（さま）を礼拝（れいはい）して、神（かみ）様（さま）の仕事（しごと）に精励（せいれい）に生（なま）の理由（りゆう）と目的（もくてき）を固定（こてい）させて、そこに連携（れんけい）して万事（ばんじ）を計画（けいかく）して行（おこな）いながら生（せい）きていけるように願（ねが）います。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

二つの種類のバプテスマ

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

復活したイエス様が天にのぼる前に弟子たちにバプテスマに関して言いつけたお話があります. “イエスは彼らに近づいてきて言われた、「わたしは、天においても地においても、いっさいの権威を授けられた。それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し、あなたがたに命じておいたいっさいのことを守るように教えよ。見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである」。”(マタイ 28:18～20),
“「エルサレムから離れないで、かねてわたしから聞いていた父の約束を待っているがよい。すなわち、ヨハネは水でバプテスマを授けたが、あなたがたは間もなく聖霊によって、バプテスマを授けられるであろう」。”(行 1:4,5). ここに見れば二つの種類のバプテスマが言及されました. 一つは水のバプテスマで他の一つは聖霊のバプテスマです. クリスチャンはこの二つのバプテスマを皆受けなければなりません. 皆さんの中にはもう二つのバプテスマをすべて受けた方もいるはずでそうではない方もいるでしょう. もう二つのバプテスマをすべて受けた方はこのようなバプテスマの神霊な意味を新しくそしてもっと深く認識する必要があります. まだバプテスマを受けることができなかった方はバプテスマを受けなければなりません. だから二つの種類のバプテスマに関するお話は皆さん皆のためなのです.

第一、水のバプテスマに関してよく見ます.

聖書にバプテスマ受ける場面が多くの所に記録されています. これをよく見れば身を水に沈むようにする方式だったことが明らかです. バプテスマヨハネが活動した当時にヨダン川で人々にバプテスマを与えました. バプテスマ受ける人は川に入って行きました. エチオピヤ人の女王カンダケの高官で、女王の財宝全部を管理していた宦官であるエチオピヤ人がバプテスマ受ける場面が使徒行伝 8 章にあります. ピリポと宦官二人が水に下がったしピリポが宦官にバプテスマを与えた後二人が水から上って来ました. これは宦官が水の中に沈む過程があったという事実を言ってくれます. ところで使徒行伝 2 章にはペテロが集まって来た人々を向けて福音を伝えたらこの日三千名もバプテスマを受けました. 三千人だという人々にバプテスマを与えたから身に水を注ぐ方式にしたことで推理することができます. われらの教壇や浸礼教壇などは水に沈むようにする方法でバプテスマを与えるが, 水を頭にちょっと振り撒く方法でバプテスマを与える教壇もあります. これはバプテスマ方式を簡素化したのです.
水のバプテスマの神霊な意味をよく見ます. バプテスマはバプテスマ受ける人が罪悪の世の中で救いをもらったことを意味します. ペテロの第一の手紙, 1 で 3 章 21 節に “この水はバプテスマを象徴するものであって、今やあなたがたをも救うのである。それは、イエス・キリストの復活によるのであって、からだの汚れをのぞくことではなく、明らかな良心を神に願い求めることである。” 言いました. バプテスマはバプテスマ受ける者が水から出る時彼が世の中に支配されないで救いを受けるようになったことを公開的に宣言することを意味します. そしてバプテスマはバプテスマ受けた者がイエス様とともに死んでイエス様とともに復活したことを意味します. ローマ書で 6 章 3 節と 4 節に “それとも、あなたがたは知らないのか。キリストイエスにあずかるバプテスマを受けたわたしたちは、彼の死にあずかるバプテスマを受けたのである。すなわち、わたしたちは、その死にあずかるバプテスマによって、彼と共に葬られたのである。それは、キリストが父の栄光によって、死人の中からよみがえらされたように、わたしたちもまた、新しいいのちに生きるためである。”と言いました. バプテスマは罪人になった自分がイエス様中で死んだという事実と同時にイエス様中で義のあるようになって新しい命を得て生き返えたことを宣言する聖なる儀式です.
水のバプテスマ受けるところには男女老幼, 人種に差別がないです. 誰でもイエスキリストを信じる者はすべてバプテスマを受けることができます. バプテスマを受けることは救いを得る条件ではないです. 救いを得た人がバプテスマを受けるのです. 救いは悔い改めてイエスキリストを信じる者にくださる神様の恵みで贈り物です. バプテスマは私たちの神様が言いつけたのです. バプテスマ儀式のまことらしくて深い意味を思う時バプテスマ受けることはすごい喜びであり特権です.

第二、聖霊バプテスマに関してよく見ます.

教会と聖徒たちの霊的貧困と能力の欠乏は聖霊のバプテスマに関する無知さと無関心にその原因があります. 聖霊バプテスマは神様が聖徒たちにくださる驚くべきな贈り物です. 初代教会の聖徒たちは聖霊バプテスマ体験をするようになると胆大で権能ある福音を伝えました. 五旬節に 120 文道が体験した聖霊バプテスマ, 初代教会の聖徒たちが体験した聖霊充満は今日もすべての聖徒たちが体験することができます. 人々に “あなたは聖霊を受けたんですか?” という質問をすれば何種類の返事を聞くようになるでしょう. “聖霊に対して分からないです.” と答える人々もいて “私はイエス様を信じるから聖霊を受けた人です.” と答える人々もい “私はイエス様を信じてから多年になったがまだ聖霊は受けることができなかったです.” という返事をする人々もいます. このようにさまざまな返事が出るようになる理由は “聖霊受ける”に対する理解不足のためです. 聖霊を受けることは非常に必要で重大なのです. そうするので “あなたは聖霊を受けたんですか?” という質問に対して正確に理解して返事しなければなりません.
イエス様を信じて迎接するようになることと聖霊を受けることは分離することができない一つの事件で分かっている人々がいます. これらは次の聖書句節たちを根拠にします. “わたしは、ただこの一つの事を、あなたがたに聞いてみたい。あなたがたが御霊を受けたのは、律法を行ったからか、それとも、聞いて信じたからか。”(ガラテヤ人への手紙 3:2) しました. “そこで、あなたがたに言っておくが、神の霊によって語る者はだれも「イエスはのろわれよ」とは言わないし、また、聖霊によらなければ、だれも「イエスは主である」と言うことができない。”(コリント人への第一の手紙 12:3) しました. “なぜなら、わたしたちは皆、ユダヤ人もギリシヤ人も、奴隷も自由人も、一つの御霊によって、一つのからだとなるようにバプテスマを受け、そして皆一つの御霊を飲んだからである。”(コリント人への第一の手紙 12:13) しました. このような聖書句節に根拠して “すべてのキリスチャンは聖霊でバプテスマ受けました. だから他にまた聖霊バプテスマを受けなければならないということは正しくないです.” と主張したらこれは聖霊バプテスマに対して完全な知識を持っていないことを現わすのです. 復活したイエス様が使徒たちに言いつけるのを “そして食事を共にしているとき、彼らにお命じになった、「エルサレムから離れないで、かねてわたしから聞いていた父の約束を待っているがよい。すなわち、ヨハネは水でバプテスマを授けたが、あなたがたは間もなく聖霊によって、バプテスマを授けられるであろう」”(行 1:4,5) しました.使徒行伝 2 章にみると弟子たちがイエス様が言いつけたお話に従順してエルサレムのある家に集まって一心で祈りに専念していたが十日が経って五旬節日に彼らが皆聖霊で充満するようになる体験をしました. そうするので “聖霊受ける”や “聖霊バプテスマ”と表現される聖霊体験は二つの種類というのが分かります. 聖霊でイエス様と連合するようになるバプテスマがあります. 悔い改めてイエスキリストを迎接するのです. そしてイエス様を信じて聖霊で生まれかわった者が聖霊充満を受ける体験としての聖霊バプテスマがあります.
クリスチャンに約束された聖霊充満を意味する聖霊バプテスマに関して詳らかによく見ます. 復活したイエス様が天に昇る前に弟子たちに言いつけるのを “見よ、わたしの父が約束されたものを、あなたがたに贈る。だから、上から力を授けられるまでは、あなたがたは都にとどまっていなさい」。”(ルカによる福音書 24:49) したし “、「エルサレムから離れないで、かねてわたしから聞いていた父の約束を待っているがよい。すなわち、ヨハネは水でバプテスマを授けたが、あなたがたは間もなく聖霊によって、バプテスマを授けられるであろう」。”(行 1:4,5) しました. そして使徒行伝 2 章にはこの約束の成り立った状況が記録されています.
聖霊充満を受けた彼らは能力を受けて胆大にイエス様でよる罪のゆるしと救いを人々に伝えました. このように聖霊充満することを受けるようにする聖霊バプテスマを “聖霊受ける”とも言います. それで聖霊バプテスマ, 聖霊充満し, 聖霊受けることを同義語で使っています. ところで初めて聖霊充満を体験する聖霊バプテスマはただ一度だが, 聖霊充満は一生の間重ねて体験することができます. だから信者たちは聖霊充満することを意味する聖霊バプテスマを受けるために切実に求めなければなりません. そして聖霊充満を重ねて体験するようにしなければなりません. 聖霊充満すれば礼拝をささげるのが好きになります. イエス様を現わして伝える事に力をつくすようになります. 神様の仕事のために献身するのが楽しみになります. 聖霊の権能が臨んでこんなことをするようになります.
皆さんの中にまだ水のバプテスマを受けない方々は必ず水バプテスマを受けてください. そして聖霊充満を意味する聖霊バプテスマを受けることができなかった方は受けるのを願って切に求めてください. 聖霊バプテスマを体験した方々は持続的な聖霊充満を願いながら祈ってください. 水バプテスマはイエス様を信じて自分の魂に起きた内的な変化をそして神様との関係を水バプテスマ儀式を通じて表す行為です. 罪の洗いを受けたことと世の中で分離して出たこと, 昔の人は葬って新しい人でまた生き返えたことをもっと深く認識するのです. 聖霊バプテスマは生まれかわった人に授けられた栄え栄えしい使命であるイエス様の証人としての使命をよく遂行するように能力を着るようにするのです. 聖徒の皆さんは水バプテスマと聖霊バプテスマを受けた信者であるのみならず持続的に聖霊充満した生活をなさるようにお願いします.